

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



○リンゴの生育状況

管内におけるリンゴの肥大状況は、9月1日現在で「ふじ」が82.5ミリとなっており、昨年と比べて2.7ミリ小さく推移しています（表1）。

●病害虫防除について

春先から降雨が非常に少なかったこともあり、現段階では特段、

表1：管内の品種別りんご肥大状況（9月1日調査）

品 種	横径（単位：ミリ）					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨年比	平年比
ふ じ	85.1	80.1	82.2	82.5	96.8%	105.9%
王 林	77.2	67.3	76.3	73.6	95.5%	99.1%
つがる	81.6	85.1	87.9	84.9	99.1%	111.1%

※平年値は過去10年間平均値



写真1：高温障害
（果点荒れ）

目立つた病害の発生は確認されていません。しかしながら、今後の気象条件によっては既に感染しているものが発病してくる可能性もあるため、最後まで気を緩めずに雨前防除を徹底して下さい。特に炭疽・輪紋病、褐斑病、すす斑・すす点病などは、10月中旬頃まで分生子飛散が続きます。前年に発生が多かった園地等では今後也十分注意が必要となります。

虫害については6月以降、ヨトウガやカメムシ、コガネムシ、ハダニ類など、それぞれ多発傾向となりました。ハダニ類については8月以降も継続して発生が見られ、9月以降も十分注意が必要です。多発している場合は、今後の気温



写真2：令和5年産に見られた障害果

低下とともにリンゴの「ぐくあ部」への越冬が見込まれるため、防除を徹底して下さい。

■本年は雪解けが遅く、春先から病害虫の多発が懸念される年といわれていることを再認識し、翌年の越冬密度低減に努めましょう。

●ふじで高温障害目立つ
高温干ばつの影響により、「ふじ」で高温障害が散見されています（写真1）。今後は肥大が進むにつれて、ひび割れや雑菌の侵入も考えられ、令和5年産に見られた症状と類似すること懸念されます。（写真2）

●有袋栽培における除袋時の注意
除袋の際は、リンゴの日やけ果を出さないために次のような注意が必要です。

- ・二重袋をかけたものは、まず外袋を剥ぎ、果実の色が黄色みがかつた時、あるいは薄い縞が入った時（晴れた日が3～5日続いた後）



▲スマートフォンでQRコードを読み込み、LINEアプリからアカウントを取得。不明な点は農業振興課までお問合せ下さい。

に内袋を剥いで下さい。また、果実に密着している葉は、外袋を剥いだタイミングで摘み取るようにしましょう。

●農産物防除暦の回収について
10月上旬に職員が今年度の「防除記録」の回収に伺います。また、「誓約書」も併せて提出下さるようお願いいたします。尚、「農作業記録簿」等については12月上旬に回収致します。

★「あい作」の導入を！
防除記録や誓約書など、スマートフォンアプリ「あい作」を用いることで書面提出が不要となります。また、生産情報やJAからの各種お知らせを即時に受け取ることが出来ます。（テレグラムでの情報配信は12月頃を目途に終了予定。「あい作」への切り替えをお願いします。）

果実販売動向

販売課 山内 結雅



平素よりJA相馬村フルーツ
テーションをご利用いただき誠に
ありがとうございます。

8月の果実販売動向をお伝えい
たします。

スイカについては長野・東北産
を中心に潤沢な入荷が続く中、好
天が続いたことから安定した需要
があり売場は広く確保されました
が、高温による品質低下が多くみ
られたことと総体量の多さから荷
動きは鈍く価格は下げ基調で推移
しました。

メロンについては本県産・北海
道産がピークとなる中で盆需要に
より安定した引き合いとなりました
。盆明け以降はこれまでの在庫
を抱えていることに加え大玉は厳
しい販売となり価格は弱含み傾向
となりました。

桃については月の前半は長野県
産・福島県産が中心でしたが、ゲ

リラ豪雨や高温による産地ロスが
多く総体量の少なさから引き合い
は強まり高値基調となりました。
月の後半は川中島がピークを迎え
入荷量が増加しましたが、末端で
は秋果実を中心とした売場構成に
移行が進んだことから大玉果を中
心に荷動きは鈍く、価格は下げ基
調となりました。

リンゴについては月の初めは長
野県産極早生・早生種の入荷が開
始となりましたが総体量は少なく、
本県6年産分が業者を中心に高値
基調で販売されました。月の後半
は長野県産サンつがるが本格化を
迎える中、本県産のきおう・サン
つがるの入荷が始まりました。総
体量の増加に伴い、入荷比率の高
い小玉果と下位等級品については
緩やかな荷動きが続き、価格は弱含
みで推移しました。

今後は量販店などの売場はメロ

ン・桃などから梨・ブドウ中心に
切り替わっていきます。

桃については長野県産が終盤を
迎え、本県産・福島県産が中心と
なる見込みです。価格については
秋果実移行に伴い売場が限定的に
なることから、弱持合で推移する
見通しです。

梨については関東産については
豊水が本格化を迎え総体量が増加
する中、市場段階でも在庫を抱え
ていることから荷動きは鈍くなる
と思われます。福岡・大分県産に
ついては豊水を中心に肥大不足に
より総体量は少ない見込みです。

りんごについては長野県産サン
つがるがピークを迎え本県産につ
いても入荷が始まりますが、小玉
や色薄の比率が多い傾向から荷動
きの鈍い状況が続き、価格は下げ
基調での推移が見込まれます。

当農協では8月は干ばつの影響
による生育の遅れなどにより思う
ように入庫が進みませんでした。9
月に入り徐々に本格化を迎えよ
うとしています。サンつがるは9

月中旬には販売のピークとなる見
通しですが、計画的に選果作業を
進め、早期出荷・有利販売に努め
てまいります。

※受付時間のお知らせ

入庫・コンテナ貸出等の受付時
間は8:00～17:50となっており
ますので、時間内での受付をお願
い致します。

全農あおもりデータ（8／30 累計）

品 種	きおう	その他	合 計
単 価 (円)	3,829	3,539	3,647
前 年 比 (%)	115	89	95
販売数量 (箱)	6,653	11,306	17,959
前 年 比 (%)	96	76	73